

昭和100年俳句年表 俳句作品出典一覧

| 俳句                | 作者    | 出典                               | 出版年            | 出版社    | 備考（初出等）                    |
|-------------------|-------|----------------------------------|----------------|--------|----------------------------|
| たましひのたとへば秋のほたるかな  | 飯田蛇笏  | 『山廬集』                            | 昭和7年／1932      | 雲母社    |                            |
| 流れゆく大根の葉の早さかな     | 高濱虚子  | 『五百句』                            | 昭和12年／1937     | 改造社    |                            |
| ヴァカボンドの群れの椅子にも散る桜 | 小泉迂外  | 『現代日本文学全集38篇<br>現代短歌集・現代俳句<br>集』 | 昭和4年／1929      | 改造社    |                            |
| 葛飾や桃の籬も水田ベリ       | 水原秋櫻子 | 『葛飾』                             | 昭和5年／1930      | 馬酔木発行所 |                            |
| うしろすがたのしぐれてゆくか    | 種田山頭火 | 『草木塔』                            | 昭和15年／1940     | 八雲書林   | 『行乞記』（日記）昭和六年十二月三十一日       |
| 頭の中で白い夏野となつてゐる    | 高屋窓秋  | 『白い夏野』                           | 昭和11年／1936     | 龍星閣    | 初出「馬酔木」昭和7年1月号             |
| 蟪蛄長子家去る由もなし       | 中村草田男 | 『長子』                             | 昭和11年／1936     | 沙羅書店   |                            |
| 夏草に汽缶車の車輪来て止る     | 山口誓子  | 『黄旗』                             | 昭和10年／1935     | 龍星閣    |                            |
| しんしんと肺碧きまで海のたび    | 篠原鳳作  | 『現代俳句 第三巻』                       | 昭和15年／1940     | 河出書房   |                            |
| 枕辺の春の灯は妻が消しぬ      | 日野草城  | 『昨日の花』                           | 昭和10年／1935     | 龍星閣    | 初出「俳句研究」昭和9年4月（創刊第二）号      |
| 秋の航一大紺円盤の中        | 中村草田男 | 『長子』                             | 昭和11年／1936     | 沙羅書店   |                            |
| ラガー等のそのかちうたのみじかけれ | 横山白虹  | 『海堡』                             | 昭和13年／1938     | 沙羅書店   |                            |
| 水枕ガバリと寒い海がある      | 西東三鬼  | 『俳苑叢刊 旗』                         | 昭和15年／1940     | 三省堂    |                            |
| ピストルがプールの硬き面にひびき  | 山口誓子  | 『炎昼』                             | 昭和13年／1938     | 三省堂    | 初出「馬酔木」昭和11年11月号           |
| 昇降機しづかに雷の夜を昇る     | 西東三鬼  | 『俳苑叢刊 旗』                         | 昭和15年／1940     | 三省堂    |                            |
| リトヴィノフは葡萄酒じやないぞ諸君 | 仁智榮坊  | 「京大俳句」                           | 昭和13年9月号／1938  | 京大俳句会  |                            |
| 戦争が廊下の奥に立つてゐた     | 渡辺白泉  | 『現代日本文学全集91<br>現代俳句集』            | 昭和32年／1957     | 筑摩書房   |                            |
| 我を撃つ敵と劫暑を俱にせる     | 片山桃史  | 『俳苑叢刊 北方兵団』                      | 昭和15年／1940     | 三省堂    |                            |
| 大戦起るこの日のために獄をたまわる | 橋本夢道  | 『無礼なる妻』                          | 昭和29年／1954     | 未来社    | 1941年俳句弾圧事件で東京拘置所に拘留中の句    |
| 曼珠沙華どれも腹出し秩父の子    | 金子兜太  | 『鼎』（田川飛旅子、青池秀二との共著）              | 昭和25年／1950     | 七洋社    | 初出「寒雷」昭和17年12月号            |
| 秋晴や勅諭誦す貨車の中       | 石田波郷  | 「鶴」                              | 昭和18年12月号／1943 | 鶴発行所   | 『病廬』（昭和21）では「秋晴や御勅諭誦す貨車の中」 |
| 勇気こそ地の塩なれや梅真白     | 中村草田男 | 『来し方行方』                          | 昭和22年／1947     | 自文堂    |                            |
| 秋蟬も泣き蓼虫も泣くのみぞ     | 高濱虚子  | 『六百句』                            | 昭和22年／1947     | 菁柿堂    |                            |
| いつせいに柱の燃ゆる都かな     | 三橋敏雄  | 『まぼろしの鱧』                         | 昭和41年／1966     | 俳句評論社  |                            |
| 徐々に徐々に月下の俘虜として進む  | 平畑静塔  | 『月下の俘虜』                          | 昭和30年／1955     | 酩酊社    |                            |
| 玉音を理解せし者前に出よ      | 渡辺白泉  | 『白泉句集』                           | 昭和50年／1975     | 書肆林檎屋  |                            |
| 獄を出て触れし枯木と聖き妻     | 秋元不死男 | 『獄』                              | 昭和25年／1950     | 作品社    |                            |
| 身をそらす虹の／絶巔／処刑台    | 高柳重信  | 『落子』                             | 昭和25年／1950     | 東京太陽系社 |                            |
| 暗闇の目玉濡らさず泳ぐなり     | 鈴木六林男 | 『谷間の旗』                           | 昭和30年／1955     | 風発行所   |                            |

昭和100年俳句年表 俳句作品出典一覧

| 俳句                  | 作者    | 出典             | 出版年        | 出版社    | 備考（初出等）        |
|---------------------|-------|----------------|------------|--------|----------------|
| 乳母車夏の怒濤によこむきに       | 橋本多佳子 | 『紅絲』           | 昭和26年／1951 | 目黒書店   |                |
| 窓の雪女体にて湯をあふれしむ      | 桂信子   | 『女身』           | 昭和30年／1955 | 琅玕堂    |                |
| 鳥雲にマッカーサーは帰りけり      | 柴田宵曲  | 『昭和俳句作品年表 戦後編』 | 平成29年／2017 | 東京堂出版  | 昭和26年作         |
| 夏みかん酸っぱしいまさら純潔など    | 鈴木しづ子 | 『指輪』           | 昭和27年／1952 | 随筆社    | 初出「樹海」昭和26年7月号 |
| 草二本だけ生えてゐる 時間       | 富澤赤黄男 | 『黙示』           | 昭和28年／1961 | 俳句評論社  |                |
| 林檎の木ゆさぶりやまず逢いたきとき   | 寺山修司  | 『花粉航海』         | 昭和50年／1975 | 深夜叢書社  |                |
| 暁紅に露の藁屋根合掌す         | 能村登四郎 | 『合掌部落』         | 昭和32年／1957 | 近藤書店   |                |
| 塩田に百日筋目つけ通し         | 沢木欣一  | 『塩田』           | 昭和31年／1956 | 風発行所   |                |
| 怒らぬから青野でしめる友の首      | 島津亮   | 『記録』           | 昭和35年／1960 | 蠅の会    |                |
| 黄の青の赤の雨傘誰から死ぬ       | 林田紀音夫 | 『風蝕』           | 昭和36年／1961 | 十七音詩の会 |                |
| スケートの塗れ刃携へ人妻よ       | 鷹羽狩行  | 『誕生』           | 昭和40年／1965 | 昭森社    |                |
| 埋立てて東京の地やつばくらめ      | 斎藤夏風  | 『埋立地』          | 昭和55年／1980 | 風神社    | 昭和34年作         |
| 秋の暮大魚の骨を海が引く        | 西東三鬼  | 『変身』           | 昭和37年／1962 | 角川書店   |                |
| 明るい山肌残すため散るオートバイ    | 赤尾兜子  | 『虚像』           | 昭和40年／1965 | 創元社    |                |
| ほととぎす敵は必ず斬るべきもの     | 中村草田男 | 『時機』           | 昭和55年／1980 | みすず書房  |                |
| どこまでが父の戦記の夏の空       | 宇多喜代子 | 『宇多喜代子 花神現代俳句』 | 平成10年／1998 | 花神社    | 初期句編「遥遥抄」所収    |
| はりがねの最も苦痛になるかたち     | 阿部青鞋  | 『阿部青鞋集』        | 昭和41年／1966 | 八幡船社   |                |
| 流水を見にゆく男をまじえずに      | 寺田京子  | 『日の鷹』          | 昭和42年／1967 | 雪襪書房   |                |
| 昭和衰へ馬の音する夕かな        | 三橋敏雄  | 『真神』           | 昭和48年／1973 | 端溪社    |                |
| 人体冷えて東北白い花盛り        | 金子兜太  | 『蛭蛭』           | 昭和43年／1968 | 三青社    |                |
| ローソクもつてみんなはなれてゆきむほん | 阿部完市  | 『絵本の空』         | 昭和44年／1969 | 海程社    |                |
| 一月の川一月の谷の中          | 飯田龍太  | 『春の道』          | 昭和46年／1971 | 牧羊社    |                |
| 木にのぼりあざやかあざやかアフリカなど | 阿部完市  | 『にもつは絵馬』       | 昭和49年／1974 | 牧羊社    |                |
| 天上もさびしからんに燕子花       | 鈴木六林男 | 『国境』           | 昭和52年／1977 | 湯川書房   |                |
| くすぐつたいぞ円空仏に子猫の手     | 加藤楸邨  | 『吹越』           | 昭和51年／1976 | 卯辰山文庫  |                |
| 祈るべき天とおもへど天の病む      | 石牟礼道子 | 『天』            | 昭和61年／1986 | 天籟俳句会  |                |
| 春の日やあの世この世と馬車を駆り    | 中村苑子  | 『水妖詞館』         | 昭和50年／1975 | 俳句評論社  |                |
| チューリップ散る一片はゴッホの耳    | 有馬朗人  | 『知命』           | 昭和57年／1982 | 牧羊社    |                |
| 幾千代も散るは美し明日は三越      | 攝津幸彦  | 『鳥子』           | 昭和51年／1976 | ぬ書房    |                |

昭和100年俳句年表 俳句作品出典一覧

| 俳句                 | 作者    | 出典                    | 出版年        | 出版社     | 備考（初出等）          |
|--------------------|-------|-----------------------|------------|---------|------------------|
| 掛稲のすぐそこにある湯呑かな     | 波多野爽波 | 『湯呑』                  | 昭和56年／1981 | 現代俳句協会  |                  |
| 鳥渡る棒高跳びの棒残り        | 澤好摩   | 『印象』                  | 昭和57年／1982 | 南方社     |                  |
| 涅槃図に漏れて障子の横の猫      | 村越化石  | 『村越化石集』自註現代俳句シリーズⅡ期38 | 昭和54年／1979 | 俳人協会    | 昭和52年作と自註にあり     |
| 「大和」よりヨモツヒラサカスミレサク | 川崎展宏  | 『義仲』                  | 昭和53年／1978 | 牧羊社     |                  |
| 梅咲いて庭中に青鯨が来ている     | 金子兜太  | 『遊牧集』                 | 昭和56年／1981 | 蒼土舎     |                  |
| イエスよりマリアは若し草の絮     | 大木あまり | 『火のいろに』               | 昭和60年／1985 | 牧羊社     |                  |
| 三月の甘納豆のうふふふ        | 坪内稔典  | 『落花落日』                | 昭和59年／1984 | 海風社     |                  |
| 階段が無くて海鼠の日暮かな      | 橋間石   | 『和栲』                  | 昭和58年／1983 | 湯川書房    |                  |
| 未来より滝を吹き割る風来たる     | 夏石番矢  | 『Métropolitique』      | 昭和60年／1985 | 牧羊社     |                  |
| 冬深し柱の中の濤の音         | 長谷川權  | 『古志』                  | 昭和60年／1985 | 牧羊社     |                  |
| くさめして我はふたりに分れけり    | 阿部青鞋  | 『ひとるたま』               | 昭和58年／1983 | 現代俳句協会  |                  |
| 回廊の終りは鳥揚羽かな        | 柿本多映  | 『蝶日』                  | 平成元年／1989  | 富士見書房   |                  |
| あやまちはくりかへします秋の暮    | 三橋敏雄  | 『畳の上』                 | 昭和63年／1988 | 立風書房    |                  |
| ふはふはのふくろふの子のふかれをり  | 小澤實   | 『砧』                   | 昭和61年／1986 | 牧羊社     |                  |
| ひかり野へ君なら蝶に乗れるだろう   | 折笠美秋  | 『君なら蝶に』               | 昭和61年／1986 | 立風書房    | 初出「俳句研究」昭和61年4月号 |
| じゃんけんで負けて螢に生まれたの   | 池田澄子  | 『空の庭』                 | 昭和63年／1988 | 人間の科学社  |                  |
| 手をつけて海のつめたき桜かな     | 岸本尚毅  | 『舜』                   | 平成4年／1992  | 花神社     |                  |
| 船虫の上眠びつしり核の傘       | 中村和弘  | 『蠟涙』                  | 平成10年／1998 | 角川書店    |                  |
| 初湯殿卒寿のふぐり伸ばしけり     | 阿波野青畝 | 『西湖』                  | 平成3年／1991  | 青畝句集刊行会 |                  |
| 寒晴やははれ舞妓の背の高き      | 飯島晴子  | 『寒晴』                  | 平成2年／1990  | 本阿弥書店   |                  |
| 綿虫やひとり黙つて蹤きゆきぬ     | 加藤楸邨  | 『望岳』                  | 平成8年／1996  | 花神社     | 平成元年作 大岡信編       |
| 初夢のなかをどんなに走つたやら    | 飯島晴子  | 『儚々』                  | 平成9年／1997  | 角川書店    | 初出「俳句」平成2年1月号    |
| 百千鳥雌蕊雄蕊を囁すなり       | 飯田龍太  | 『遅速』                  | 平成4年／1992  | 立風書房    |                  |
| みづから遺る石斧石鏃しだらでん    | 三橋敏雄  | 『しだらでん』               | 平成8年／1996  | 沖積舎     |                  |
| 聳え立つとは雪の富士のみに云ふ    | 山口誓子  | 『新撰大洋』                | 平成8年／1996  | 思文閣出版   | 平成三年作 末永山彦編      |
| 水遊びする子に先生より手紙      | 田中裕明  | 『先生から手紙』              | 平成14年／2002 | 邑書林     |                  |
| 寒雷や在りし日のこゑうしろから    | 加藤楸邨  | 『望岳』                  | 平成8年／1996  | 花神社     | 平成五年作 大岡信編       |
| 旅終へてよりB面の夏休        | 黛まどか  | 『B面の夏』                | 平成6年／1994  | 角川書店    |                  |
| 白梅や天没地没虚空没         | 永田耕衣  | 『自入』                  | 平成7年／1995  | 湯川書房    |                  |

## 昭和100年俳句年表 俳句作品出典一覧

| 俳句                       | 作者      | 出典               | 出版年        | 出版社    | 備考（初出等）                                      |
|--------------------------|---------|------------------|------------|--------|----------------------------------------------|
| 戒名は真砂女でよろし紫木蓮            | 鈴木真砂女   | 『紫木蓮』            | 平成10年／1998 | 角川書店   |                                              |
| ぶらぶらを春の河まで棄てにゆく          | 攝津幸彦    | 『鹿々集』            | 平成8年／1996  | ふらんす堂  |                                              |
| あめんぼと雨とあめんぼと雨と           | 藤田湘子    | 『神楽』             | 平成11年／1999 | 朝日新聞社  |                                              |
| 洗はれて山河へ戻る茎の石             | 飴山實     | 『飴山實全句集』         | 平成15年／2003 | 花神社    | 初出『現代俳句の世界』平成十年六月                            |
| 亀鳴くを聞きたくて長生きをせり          | 桂信子     | 『草影』             | 平成15年／2003 | ふらんす堂  |                                              |
| 烏瓜鳥羽僧正が袖の下               | 島津亮     | 『平成秀句選集』         | 平成19年／2007 | 角川学芸出版 | 俳句編集部編                                       |
| カンパスの余白八月十五日             | 神野紗希    | 『星の地図』           | 平成14年／2002 | まる工房   | 第4回俳句甲子園最優秀句                                 |
| ビル、がく、ずれて、ゆくな、ん、てきれ、いき、れ | なかはられいこ | 『WE ARE!』第3号     | 平成13年／2001 |        | 倉富洋子、なかはられいこの二人誌                             |
| 明日は死ぬ花の地獄と思うべし           | 佐藤鬼房    | 『幻夢』             | 平成16年／2004 | 紅書房    |                                              |
| 水の地球すこしはなれて春の月           | 正木ゆう子   | 『静かな水』           | 平成14年／2002 | 春秋社    |                                              |
| 空へゆく階段のなし稲の花             | 田中裕明    | 『夜の客人』           | 平成17年／2005 | ふらんす堂  |                                              |
| 夏怒濤海は真を盡しけり              | 桂信子     | 『平成秀句選集』         | 平成19年／2007 | 角川学芸出版 | 俳句編集部編                                       |
| 死ぬ朝は野にあかがねの鐘鳴らむ          | 藤田湘子    | 『てんてん』           | 平成18年／2006 | 角川書店   |                                              |
| 漏刻といふ垂直の梅雨深し             | 小川双々子   | 『平成秀句選集』         | 平成19年／2007 | 角川学芸出版 | 俳句編集部編                                       |
| 夜咄は重慶爆撃寝るとする             | 鈴木六林男   | 『鈴木六林男全句集』       | 平成20年／2008 | 草子舎    | 久保純夫編                                        |
| わが死後は空蟬守になりたしよ           | 大木あまり   | 『星涼』             | 平成22年／2010 | ふらんす堂  | 初出「星の木」2008年春・夏号（蘭草慶子、石田郷子、大木あまり、山西雅子による四人誌） |
| 鐵帽に軍靴をはけりどの骨も            | 眞鍋呉夫    | 『月魄』             | 平成21年／2009 | 邑書林    |                                              |
| 人類に空爆のある雑煮かな             | 関悦史     | 『六十億本の回転する曲がつた棒』 | 平成23年／2011 | 邑書林    |                                              |
| 台風や地球の水を繰り返し             | 和田悟朗    | 『風車』             | 平成24年／2012 | 角川書店   |                                              |
| 泥かぶるたびに角組み光る蘆            | 高野ムツオ   | 『萬の翹』            | 平成25年／2013 | 角川学芸出版 |                                              |
| わが足のあお耐えがたき美味われは蛸        | 金原まさ子   | 『カルナヴァル』         | 平成25年／2013 | 草思社    |                                              |
| 夕焼けの原発すでにして遺跡            | 仲寒蟬     | 『巨石文明』           | 平成26年／2014 | 角川学芸出版 |                                              |
| 竜天に登るわたしは靴を履く            | 鍵和田柚子   | 『濤無限』            | 平成26年／2014 | 角川学芸出版 |                                              |
| よき仕事する蚯蚓らに土尽きず           | 矢島渚男    | 『冬青集』            | 平成27年／2015 | ふらんす堂  |                                              |
| 男来て出口を訊けり大枯野             | 恩田侑布子   | 『夢洗ひ』            | 平成28年／2016 | 角川書店   |                                              |
| 鈴虫を梵音（ぼんのう）と聴く北の寺        | 瀬戸内寂聴   | 『ひとり』            | 平成29年／2017 | 深夜叢書社  |                                              |
| 河より掛け声さすらいの終るその日         | 金子兜太    | 『百年』             | 令和元年／2019  | 朔出版    |                                              |
| 開戦日が来るぞ渋谷の若い人            | 大牧広     | 『朝の森』            | 平成30年／2018 | ふらんす堂  |                                              |
| 忘れないための消しゴム原爆忌           | 秋尾敏     | 『ふりみだす』          | 令和2年／2020  | 本阿弥書店  | 現代俳句協会賞受賞                                    |

昭和１００年俳句年表 俳句作品出典一覧

| 俳句                  | 作者    | 出典      | 出版年       | 出版社   | 備考（初出等） |
|---------------------|-------|---------|-----------|-------|---------|
| あつ彼は此の世に居ないんだった葉ざくら | 池田澄子  | 『此処』    | 令和2年／2020 | 朔出版   |         |
| 戦争と戦争の間の朧かな         | 堀田季何  | 『人類の午後』 | 令和3年／2021 | 邑書林   |         |
| 癌ぐらゐなるわよと思ふ萩すすき     | 正木ゆう子 | 『玉響』    | 令和5年／2023 | 春秋社   |         |
| 春や有為の奥山越えてダンスダンス    | 柿本多映  | 『ひめむかし』 | 令和5年／2023 | 深夜叢書社 |         |
| 猿曳や猿の背中をそつと押し       | 西村麒麟  | 『鷗』     | 令和6年／2024 | 港の人   |         |